

編集後記

●「読者のおたより」を見ても、状況への危機感とそれにとたいする決意のほどが、じかに伝わってくる。昨年末の特定秘密保護法と、とくに「7月1日」とは、戦後史をくつがえすクーデターだった。論理や言葉による反論ももちろん大切だが、今いちばん必要とされているのは、ぼくらの意思をどのような行動や抵抗形態を通じて示すかだろう。本誌もその一翼を担っていきたい。

(高橋武智)

●毎朝、新聞を開く度に憂鬱なボデイカウントをするのが癖になってしまった。各地の戦乱による死者の数である。数カ月前までは舞台はシリアであり、その前はエジプトだった。それがウクライナとなり、イラクとなり、ガザになり、再びウクライナとなる。昨日はイ

スラエルのガザ攻撃2週間で死者は500人を超えた。ウクライナ上空のマレーシア航空機撃墜でおよそ300人。我々は人命の安い時代に再突入したらしい。それにつけても思い出すのは、国会で安倍氏が下手な絵で提示した非常時のイメージの貧しさだ。戦争のお手本なら、目前にゴマンとあるのに。

(本野義雄)

●1月末に自分の不注意から転倒してかなりひどい骨折をし、4カ月もの長い入院生活になり、現在も歩くためのリハビリを続けています。ステッキで何とかオロオロ歩けますが、まだとてもデモには参加できません。でも、

6・15の声なき声の集会には何とか参加し、夕刻には国会南通用門での榊美智子さんへの献花も行なうことができました。この集会で多くの方がたからいろいろ話が出されましたが、その中の金井佳子さんの小学生の時の朝鮮人の話は感動で、ぜひ本誌にそれを掲載

させて下さるように希望したのです。ありがとうございました。なお、この時の6・15のことも記録したNHKのドキュメント「鶴見俊輔と『思想の科学』」の録画があります。ご希望の方にはお貸しできますので、事務局へご連絡ください。

(吉川勇一)

●私は、当会の抗議声明のスローガンを次のように読み替えました。武力は、日本では自衛隊です。また、9条2項は「……陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない」と定めています。したがって、「武力で平和はつくれない」は「自衛隊では平和はつくれない」。九条実現とは、2項で保持しないと定めた戦力である自衛隊をなくすこと。ならば、「9条を実現するため戦い続けよう」は「自衛隊を解体するまで戦い続けよう」と。

かつて、ベトナム反戦の時、私たちは、「G Iゴホーム」から「G Iジョインアス」へと呼びかけを変えました。それは、米兵とともにベトナム反戦運動を戦うことでした。抗議文にもあるように海外に派遣される自衛官の人権を守るには、私たちが自衛官とともにその人権を守ることが必要と思います。

(有馬保彦、本号担当)



2014. 6. 10. 10:30分*

◆編集委員

阿部めぐみ、天野恵一、有馬保彦(本号担当)、杉内蘭子、高橋武智、西田和子、野澤信一、諸橋泰樹、本野義雄、吉川勇一、吉田和雄